

① はじめさんとさくらさんは、「学ぶとは、どういうことなのか」について考えるために【文章A】と【文章B】を読みました。それぞれの記事を読み、各問いに答えなさい。

【文章A】

それでも本でなければ得られないものは何か。それは、知識の獲得の②かていを通じて、じっくり考える機会を得ることにある——つまり、考える力を養うための情報や知識との格闘の時間を与えてくれるということだと私は思います。

他のメディアとは異なり、本をはじめとする紙に書かれた活字メディアでは、受け手のペースに合わせて、メッセージを追っていくことができます。I、今この本を手にしている皆さんは、めんどうくさいやと、*一足飛びに別の章を開いたりすることも、*斜め読みをして、「もういいや」とこの本を投げ出してしまいうこともできます(でも、もう少し辛抱してつきあってください)。あるいは、これまで読んできたところを、もう一度読み返して、この著者がこれから何をいおうとしているのか、予想を立てることもできるでしょう。活字メディアの場合、読み手が自分のペースで、文章を行ったり来たりしながら、「*行間を読んだり」「論の進め方をたどったり」することができるようになります。①他のメディアに比べて、時間のかけかたが自由であるということです。

文章を行ったり来たりできることは、立ち止まってじっくり考える余裕を与えてくれることでもあります。もっともらしいせりふに出会っても、話しているときのように「そんなものかな」と思っても十分*吟味もせずに納得してしまわない。本の場合、そうしたもっともらしさ自体を疑ってかかる余裕が与えられるということです。つまり、ありきたりの「常識」に飲み込まれないための*複眼思考を身につけるうえで、こうした活字メディアとの格闘は格好のトレーニングの場となるのです。

(荻谷剛彦『知的複眼思考法』による 出題のため一部改編)

- *一足飛び …… 順序をふまず、先に進むこと
- *斜め読み …… 細かい部分を飛ばして読むこと
- *行間を読んだり …… 文章には明記されていない筆者の考えをくみ取ること
- *吟味 …… くわしく調べること
- *複眼思考 …… 物事を複数の視点から理解しようとする考え方

【文章B】

② このごろ「協調学習」という言葉もよく耳にする。生徒が机におとなしく座って先生の話を聞かれこれまでの*授業スタイルから、グループでいっしょに作業したり、*ディスカッションしたりするスタイルに変わりつつある。これは*認知科学的にも意味があることだ。まず、自分の考えを他の人に話すことは、考えを明確にし、整理するのにとても役立つ。自分でわかったつもりでいたことでも、いざ人に説明しようとするとうまくできないことがある。すると、自分で何が理解できていないのかがわかるのである。

複数の人が集まって考えを出し合うことで、自分では考えつかなかった視点やアイデアに気づくことができるという利点もある。

③ じつさい、社会ではほとんどの*プロジェクトは複数のメンバーで行う。多様な視点、価値観、知識、*スキルが*シナジー効果を生む。*コラボレーションをうまく行うためには経験が必要だ。II、学校でコラボレーションによってプロジェクトをまとめる練習をすることはとても大事である。しかし、複数の人が集まれば、いつもプラスになるというわけではない。参加者一人ひとりが*探究エピ

ステモロジを持っていなければ、シナジー効果は生まれない。大事なことは、一人で考えることをおろそかにしないことだ。*アunders・エリクソンは、超一流の熟達者ほど一人での練習に時間をかけるという結果を発表している。世界クラスのチェスプレーヤーたちに、一人で勉強する時間とトーナメントで試合する経験とでは、どちらが大事かを聞いたところ、一人で勉強する時間のほうが大事だという答えが大半だったそうである。

机の前に座って受動的に授業を聴き、覚えることを主としたこれまでの学習スタイルがよいと言っているわけではもちろんない。しかし、自分にしかない知識やスキルと、探究エピステモロジがなければコラボレーションに貢献できない。③他人にはない知識、スキル、考え方を持つには、自分で工夫しながら自分ひとりで学ぶ習慣と学び方を子ども時代に身につけていかなければならない。

(今井むつみ『学びとは何か―《探究人》になるために』による 出題のため一部改編)

- *授業スタイル …… 授業の形式、授業の型
- *ディスカッション …… 討論、討議
- *認知科学 …… 人間の知の働き・仕組みを研究する学問
- *プロジェクト …… 計画、課題
- *スキル …… 技能、技術
- *シナジー効果 …… 複数の人や物などが作用し合うことで高い効果が生まれること
- *コラボレーション …… 複数の人や物などが協力したり、共に働いたりすることで新たな価値を生むこと
- *探究エピステモロジ …… 探究を進めていく上で必要な「知識のとりえ方」
- *アunders・エリクソン …… スウェーデンの学者

- 問一 ——— 線部④、⑤のひらがなを漢字に直して書きなさい。
- 問二 空らんIとIIにあてはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次のア〜カから一つ選び、その記号を書きなさい。
- | | | |
|---|---------|----------|
| ア | I 〓たとえ | II 〓だから |
| イ | I 〓また | II 〓ところが |
| ウ | I 〓そして | II 〓それとも |
| エ | I 〓たとえば | II 〓ところが |
| オ | I 〓また | II 〓それとも |
| カ | I 〓そして | II 〓だから |

問三 ——— 線部①「他のメディアに比べて、時間のかけかたが自由である」とは、どういうことですか。筆者が説明していることとして、最も適切なものを、次のア〜エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 活字メディアでは、新聞紙やテレビ放送など他のメディアより、受け手自身が内容を理解するペースを調整しやすいこと。

イ 活字メディアでは、他のメディアが意図的に発信するありきたりの「常識」を疑う時間があること。

ウ 活字メディアでは、一部の章を飛ばして読むことではじめて著者の主張を予想するための時間を確保できるということ。

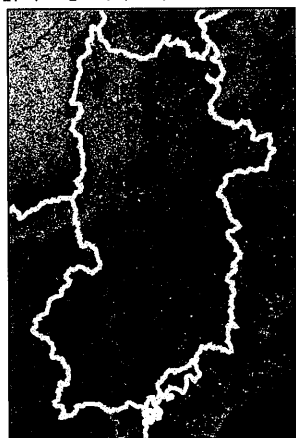
エ 活字メディアでは、文章を読み進めるだけでなく、ときには読み返せるので、考えるゆとりがあること。

【二】はじめさんとさくらさんは、さまざまな資料を使って、これまでの学習を振り返ることにしました。各問いに答えなさい。

問一 写真資料や地図ソフトを活用しながら、話している二人の会話を読み、各問いにそれぞれ答えなさい。

はじめ 【図1】の上空から撮影された奈良県の写真を見ると、奈良盆地は奈良県の（a）部に位置していますね。さくら そうですね。盆地であることは授業で学び知っていましたが、【図1】を見ると、はっきりと確認できます。はじめ 奈良盆地は、歴史的にも政治や文化の中心として、たくさんの出来事の舞台となってきましたね。さくら 政治では、奈良盆地には（b）京や平城京が成立して、国の中心だったことを学びましたね。はじめ 文化では、和歌の学習から、①大和三山（天香久山・畝傍山・耳成山）についても学びました。さくら ②古事記や万葉集にも登場する山々だと聞いて、みんな和歌をつくったことをよく覚えています。

【図1】奈良県の写真



(地理院地図Vectorより作成)

(一) 空らん a にあてはまる言葉を、【図1】を参考にして、次のア～エから一つ選びその記号を、また空らん b にはあてはまる言葉を書きなさい。

ア 北東 イ 北西
ウ 南東 エ 南西

(二) 線部①「大和三山」とありますが、地図ソフトで

【図2】の★地点の上空から大和三山のそれぞれを見下ろした画像を作成しました。畝傍山を見下ろした画像として最も適切なものを、次のア～ウから一つ選び、その記号を書きなさい。

※【図2】およびア～ウの図は、標高を強調し、地形のみをぬきだして作成しています。

【図2】大和三山



(カシミール3Dより作成)



(三) 線部②「古事記や万葉集」とありますが、江戸時代に古事記や万葉集の中に日本人の心をさぐり、「古事記伝」という書物を完成させた人物はだれか書きなさい。

問二 奈良市の気候の特徴を調べるために、これまでの学習でいくつかの県庁所在地

(秋田市・仙台市・金沢市・高松市)の気候と比較し、【表1】を作成しました。仙台市にあてはまるものとして、最も適切なものを、【表1】のA～Eから一つ選び、その記号を書きなさい。

【表1】各県庁所在地の資料

	年降水量(mm)	年間の降雪の深さ(cm)	8月の平均気温(℃)	1月の平均気温(℃)
奈良市	1365.1	5	27.8	4.5
A	2401.5	157	27.3	4.0
I	1276.7	59	24.4	2.0
U	1150.1	1	28.6	5.9
E	1741.6	273	25.0	0.4

※ 1991～2020年の平均値(年・月ごとの値)
(気象庁ウェブサイトより作成)

問三 はじめさんとさくらさんは、奈良市のウェブサイトで、「奈良市道路損傷等通報システム」を見つけ、その内容を【資料1】のようにまとめました。【資料1】を参考しながら、このシステムの仕組みとして最も適切なものを、次のA～Eから一つ選び、その記号を書きなさい。

A 市民から寄せられる損傷に関する情報を、デジタル地図を活用し状況を確認することができるので、損傷した場所の近くの住民が損傷部分を補修する役目を担っている。
I 市民が道路損傷の状況を、ウェブサイトを通じて直接公開することができるので、正確な情報を他の市民と共有することができる。

U 市民から時間を問わずに、道路損傷の情報が電話のみで寄せられるため、管理者(市)は、二十四時間体制で対応し、情報をウェブサイトで共有できるようにしている。

E 市民が知らせた道路損傷の情報は、管理者(市)が確認し、デジタル地図で公開されるので、市民は管理者(市)の対応状況もふくめて知ることができる。

【資料1】

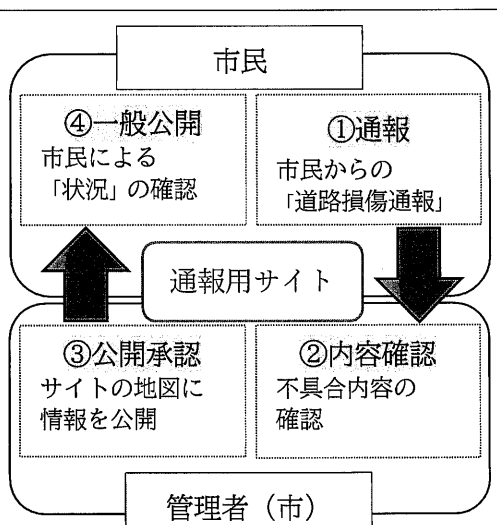
<奈良市道路損傷等通報システムの内容>

インターネットを通じて、市民が道路や街路灯の不具合を、パソコンやスマートフォンから通報する仕組みです。市民が損傷に気づいた場所と写真を投稿すると、管理者(市)が内容を確認し、その情報をデジタル地図上に公開します。同時に、管理者(市)は補修などの対応にあたります。インターネット上のデジタル地図では、損傷場所の写真や細かな情報がのせられています。このデジタル地図は、みんなが活用することができます。

<デジタル地図での表示内容>

- ▽ 発見した日：2023年〇月〇日
- ▽ 発見した人：Ichijo Sakura
- ▽ 写真：損傷場所の写真
- ▽ 発見した時の状況：道路に穴が開いていました。
- ▽ 対応状況：対応中
- ▽ 管理者からのコメント：連絡ありがとうございます。現在対応しておりますのでしばらくお待ちください。

(奈良市ウェブサイトより作成)



<利用方法>

1. ウェブサイトにアクセス
2. 投稿画面の呼び出し
3. 投稿内容の入力
4. 投稿する場所の登録
5. 入力内容の確認・投稿
6. 投稿データの確認

三 はじめさんは戦国時代や江戸時代の文化について学ぶために次の文章を読みました。各問いに答えなさい。

戦国時代や江戸時代、人々は何を着ていたでしょう？そう、むろん和服(着物)ですよね。では、和服とはどういう衣装ですか？今、結婚式や七五三、成人式で着る衣装、あるいは男性なら落語家さんたちが着ている衣装や、時代劇ドラマの中の衣装を思い浮かべると思えます。

では、あれらの衣装はどこから来たのでしょうか？和服を売る店を「*呉服屋」と言います。和服は実は、和(日本)の服ではなく、中国の呉の服なのです。中国古代を舞台にした映画では、日本の着物とそっくりな衣装を着ていることに気づくと思います。首の前でえりを合わせる方法は、韓国朝鮮のチマチヨゴリも同じで、これも中国から来た衣装です。琉球王国(現在の沖縄)も同じ形の衣装です。*ブータンでは今でも男性の正式な衣装は、日本の着物と全く同じ形をしています。これらはすべて中国由来で、着物は正確に言えば東アジア共通の衣装なのです。

しかし違っていることもあります。たとえば袴や*羽織です。これは日本独自に発明され、付け加えられたと思われまます。着物を見ていると日本にはズボンが無いかのように思えますが、実は袴に代表されるズボン系の衣類は実に豊かです。カルサンとか「たつつけ」と呼ばれる、足首のところがすぼまっているズボンは、戦国時代の男性も江戸時代の男性もよく穿いていました。カルサンというのはポルトガル語です。中国由来の着物に、ポルトガル由来のズボンを穿いていたというわけです。

たとえば、上杉謙信(一五三〇〜七八)が穿いていたと言われている革のカルサンが残っています。それは明るい茶色で裾がすぼまっています。その裾にはいくつものボタンがついています。ボタンという言葉もポルトガル語で、「つき出たもの」という意味です。ヨーロッパでは一四世紀から*上流社会で流行し、一六世紀ではまだ一般的ではなかったようですが、日本の武将たちはもう使っていました。ボタンは*陣羽織(武士が戦時の陣中で着た羽織)や足袋にも使われていました。

その陣羽織も、ポルトガルの影響を強く受けました。やはり上杉謙信が着ていたと言われる陣羽織は内側には中国の*金欄を使い、紺色の羅紗を胴体に、赤い羅紗を袖部分に配置し、金糸で縁取りをしてあります。*ラシヤとは毛織物のことです。日本では羊類を飼育しませんから全て輸入品です。一四世紀ごろからラシユカ(現在のセルビア南部とモンテネグロ一帯と思われる)で織られ、クロアチアのドゥプロブニクからヨーロッパ諸国に広まりました。それでポルトガル人はラシヤと呼んでいました。その色の配置やデザインも、それまでの日本や中国では見られないものです。

このように、ポルトガル船が運んできたものは、ポルトガルのものでだけではありませんでした。当時のポルトガルは決して日本より技術が進んでいるわけではなく、むしろ中国やインドの技術産品や日本の銀、モルッカ諸島のこしょうを求めてアジアに来ていたのです。この陣羽織の内側に使っている中国の絹織物もまた、ポルトガル船が運んできたものです。日本に運んでくる積み荷の約九〇%が中国の生糸、絹織物でした。つまり日本はポルトガルという国をあてにしていたのではなく、中国の物資を運んでくれる船が欲しかっただけなのです。ですから、江戸時代になってポルトガル船、スペイン船への渡航禁止令を出しても、日本はあまり困りませんでした。*オランダ東インド会社が、ポルトガル船の代わりをしてくれたからです。当時の日本にとって、ヨーロッパは便利な運送屋さんに過ぎませんでしたので、差別的な「南蛮(南の野蛮な人)」という呼称を使ったのです。

しかし尊敬の対象ではなくとも、彼らのファッションには極めて強い関心を示し、今でもたくさん残っている南蛮屏風には、詳細に

彼らの衣装が描かれています。宣教師と商人は描き分けられ、船員と船長、*マレー系かインド系と思われる使用人たち、荷揚げされる動物たちも、実に詳しく描かれました。そのような関心が、ファッションの導入につながったのです。日本人は何より、ポルトガル人のファッションを面白いと思ったのです。

(田中優子『グローバル化の中の江戸』による)

- *呉……………中国の南部にあった国
- *ブータン……南アジアに位置する国
- *羽織……………着物の上に重ねて羽織るもの
- *上流社会……社会的、経済的地位の高い人たちが構成される社会
- *陣……………戦時の軍隊のいるところ
- *金欄……………絹織物に金糸で模様を織り出したもの
- *ラシヤ……………羅紗のこと
- *オランダ東インド会社……アジア地域との貿易のためにつくられたオランダの会社
- *マレー系……マレー語を話す人

問一 筆者が述べているボタンとズボンの歴史的背景として、適切なものを、次のア〜オから二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 東アジア共通の衣装である着物に袴を付け加えているのは、日本独自の組み合わせである。

イ ズボンは、戦国時代や江戸時代から穿かれていた、中国由来のものである。

ウ 戦国時代の上杉謙信は、ボタンのついたズボン系の衣類を着用していた。

エ ボタンは、一四世紀からヨーロッパの上流社会で流行したが、それ以前に日本の武将たちは使っていた。

オ 南蛮屏風には、ヨーロッパの人々の衣装が詳細に描かれているが、日本人はそのファッションに興味を示さなかった。

問二 はじめさんは、——線部「クロアチアのドゥプロブニク」に興味を持ち、調べてみました。次の文はその結果をまとめたものです。文中の空らんにあてはまる国際連合の機関名を書きなさい。

ドゥプロブニクは、貿易によって栄えた都市で「アドリア海の真珠」とも言われる美しい街並みがあります。旧市街は()によって世界文化遺産に登録されています。

問三 戦国時代や江戸時代に、ポルトガルは何を求めてアジアに来ていたと筆者は述べていますか。二十八字でぬき出して書きなさい。句読点()、()、()、()、()などの記号は、それぞれ字数に数えます。

問四 本文を読んだはじめさんは、これまでも日本がさまざまな文化を取り入れてきた歴史を思い出し、まとめてみました。空らんaには中国の当時の国名を、空らんbには、あてはまる言葉を十〜十五字で書きなさい。

七世紀の日本では、聖徳太子が、(a)に習い、(b)のために、中国に使者を送り、進んだ制度や文化、学問を取り入れた。